

神奈川県警の7人書類送検

交通違反2716件取り消し

反則切符に虚偽記載疑い

神奈川県警は20日、第2交通機動隊の40代男性巡查部長らが速度違反の取り締まりなどでその書類を作成したとして、関与した違反2716件を取り消し、納付済みの反則金約3457万円を還付すると公表した。交通反則切符（青切符）に事実と異なる取り締まり状況を記載したなどとして、巡查部長ら7人を虚偽有印公文書作成・同行使容疑で書類送検した。今村剛本部長は「信頼を大きく損ない、深くおわびする」と謝罪した。

警察庁と県警は巡查部長ら計19人を懲戒免職などの処分とし、うち不正発覚時の和田薫前県警本部長は口頭厳重注意とする。既に退職した5人は処分相当とし、県警は290人態勢のプロジェクトチームを設置。



交通取り締まり不正について、記者会見で謝罪する神奈川県警の今村剛本部長。20日午前、神奈川県警本部

違反の種類	件数
第2交通機動隊の小隊に在籍した巡查部長が現認した違反	2562
巡查部長と共に取り締まった警察官が現認した違反	134
巡查部長とは別の警察官が取り締まり、不適正な実況見分調書作成疑いがある違反	20
合計	2716

取り消し
2716件の内訳

県警によると、書類送検されたのは第2交通機動隊

第2中隊の第4小隊（茅ヶ崎市）に所属していた警部補1人、巡查部長2人、巡查長4人。2022年3月〜24年9月に小隊に在籍し

た交通部門の経験が長い40代巡查部長の影響の下で、不正に関与したとした。書類送検容疑は22〜24年、パトカーなどで一定の

距離を保って追跡し、速度を計測しなければならぬ取り締まりで、実際の追跡距離より長く交通反則切符に記載した疑い。また違反

を否認され、現認した警察官らが現場で実況見分調書を作る必要があるのに、再訪したように装って作成した疑い。

管内にある自動車専用道路などで不正取り締まりは行われた。24年8月に摘発された人から県警に相談があり発覚。巡查部長は調査に「事故防止のため一件でも多く取り締まりをしたかった。実況見分の時間を取



「一件でも多く」ノルマ意識か

速度違反などの取り締まりを巡り、神奈川県警第2交通機動隊（2交機）で虚偽の書面作成が繰り返されていた。交通部門の経験値が高く発言力が強かった40代男性巡查部長の影響を受け、少人数のチームで不正が常態化した。透けて見える誤った正義感。成績主義が一因となった可能性も。識者は「警察への不信感が高まる影響は甚大。交通法

閉鎖的な環境

「一件でも多く取り締まっていた。悪質な違反を排除したかった。交通畑が長かった巡查部長は、県警の調査にこう語ったという。不正の疑いがある取り締まりのほとんどは2交機の小隊に在籍した2022年3月から24年9月の間に行われた。09〜14年にも2交機に所属したことがあって強い影響力を持ち、5人が一組となる小隊内には上司となる警部補もいたが、あらがえずに不正を黙認していたという。

取り締まりの際、実際の追跡距離とは異なる数値を交通反則切符に記載。現場を訪れずに実況見分調書を作成...。取り消す「違反」は2700件を超え、これらの行為によって積み上げられた疑いは消

成績主義も

県警では以前、事故防止に必要な取り締まり件数として過去の状況を踏まえた「目安」を示していた。他の都道府県ではみられない独自の取り

巡査部長 ゆがんだ正義感



現場に臨場して実況見分調書を作成
現場に行かずインターネットの地図などを使い作成

小隊の拠点は同県茅ヶ崎市弁護士は「交通取り締まりは最も市民生活に身近な警察活動。前代未聞の規模の不正を受け、警察がルールを守っていないのにと反発され取り締まり現場でトラブルが起こるかもしれない」と懸念を示す。不正が横行しているのにチェック体制が全く機能しなかったのは組織の上層部に問題があるとし「現場の暴走と捉えずに、現在の交通警察のあり方でのいいのかという構造的な問題に光を当てるべきだ」とした。